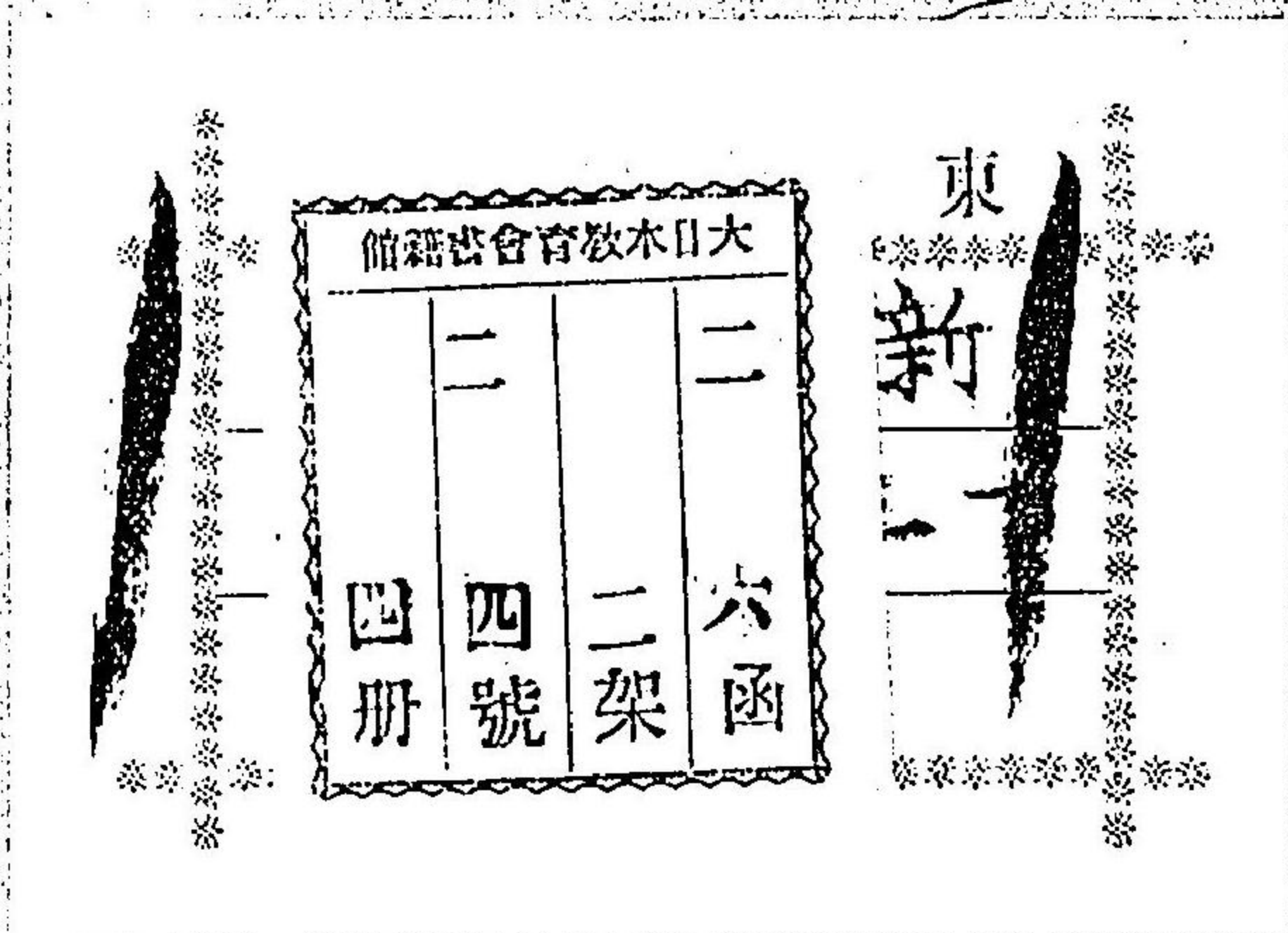


宇田川 準一譯
小學讀本
一

特34

980



081647-001-7

特34-980

小学讀本

宇田川 準一/訳

M15

DAC-6446



980



小學讀本卷之一

宇田川準一 譯

小笠原東陽 校

第一課

第一

かれハ何に乗りて、
居るや、○かれハ馬

小學讀本卷之一

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

卷一

小學讀本

文學社刊行



特34
980



小學讀本卷之一

宇田川準一 譯

小笠原東陽 校

第一課

第一

かれハ何に乗りて、
居るや。○かれハ馬

小學讀本

宇田川準一 譯
小笠原東陽 校

卷一

文學社
藏版章

文學社刊行

に、乗りて居れり。○彼はたれなりや。○彼は某なり。

第二



これは小兒なりや。○然り。○彼は何の中に居るや。○彼は今籠船の中に居れり。

第三

行け。○其處まで行け。○徐に行け。○我等の行く如くに行くべし。

第四

彼は馬の上に乗りて居るや。○彼は馬に乗



りて居れり。○我も馬に乗りて居れり。○我等は共に馬を歩ませせて行くなり。



第五

我等は河の中に行けるや。○我等はその中に行けり。○我

等の爲す如くにせよ。○私の斯く爲す如くすべし。

第六

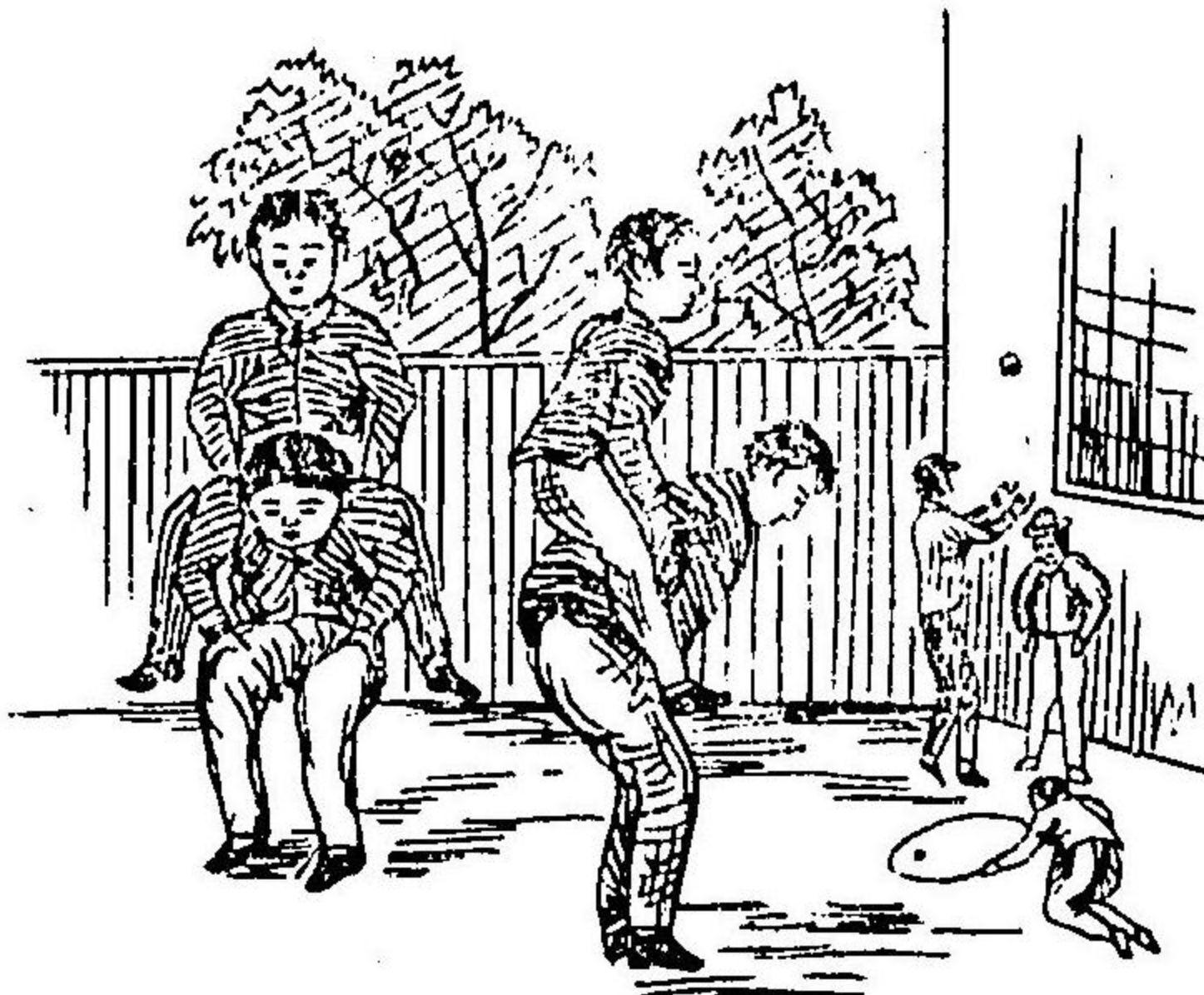
鷲は飛び翔ることを得るや。○鷲は飛び翔ることを得。○我は



飛び上ることを得るや。○否、飛び

上ること能はず

第七



我等の爲めに體を縮めて前に屈め○我等は、その上を跳ね越さんとす○我等の爲す如くせよ○我等の如くにすべし

第八



も亦入れり

我は水の中に入れりや○我は水の中に、入れり○彼も我と同どく、その中に入れり○吾の飼牛

第九



これは牛なりや。○こ
れは彼の飼牛なりや。
○否、これは牛にあら
ずして、獅なり。○行け、行け、他所へ
行くべし。

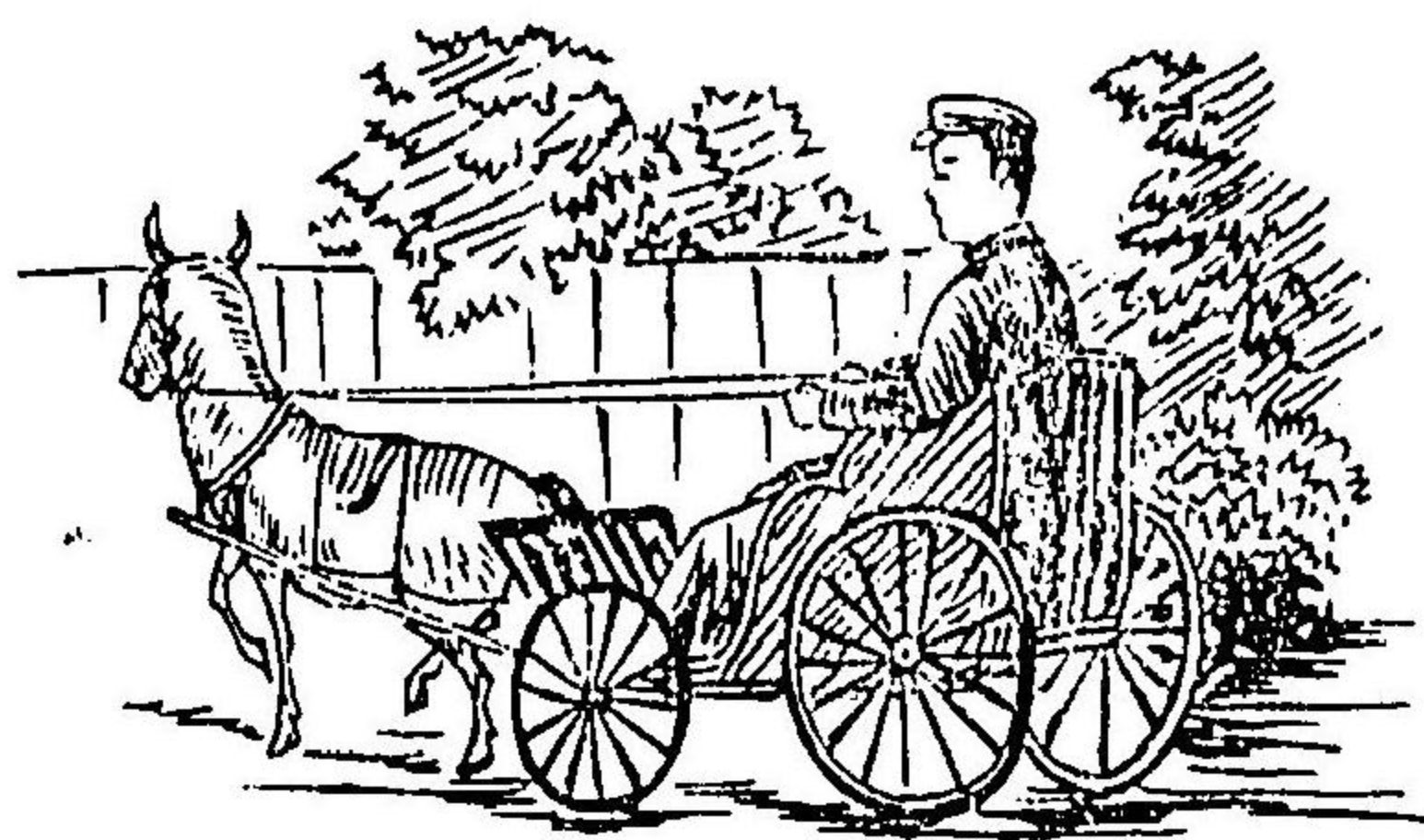
第十



この帽は我等の冠るべきものな
りや。○これは吾に冠
ることを得べきや。○
これは冠ることを得
べし。

第十一

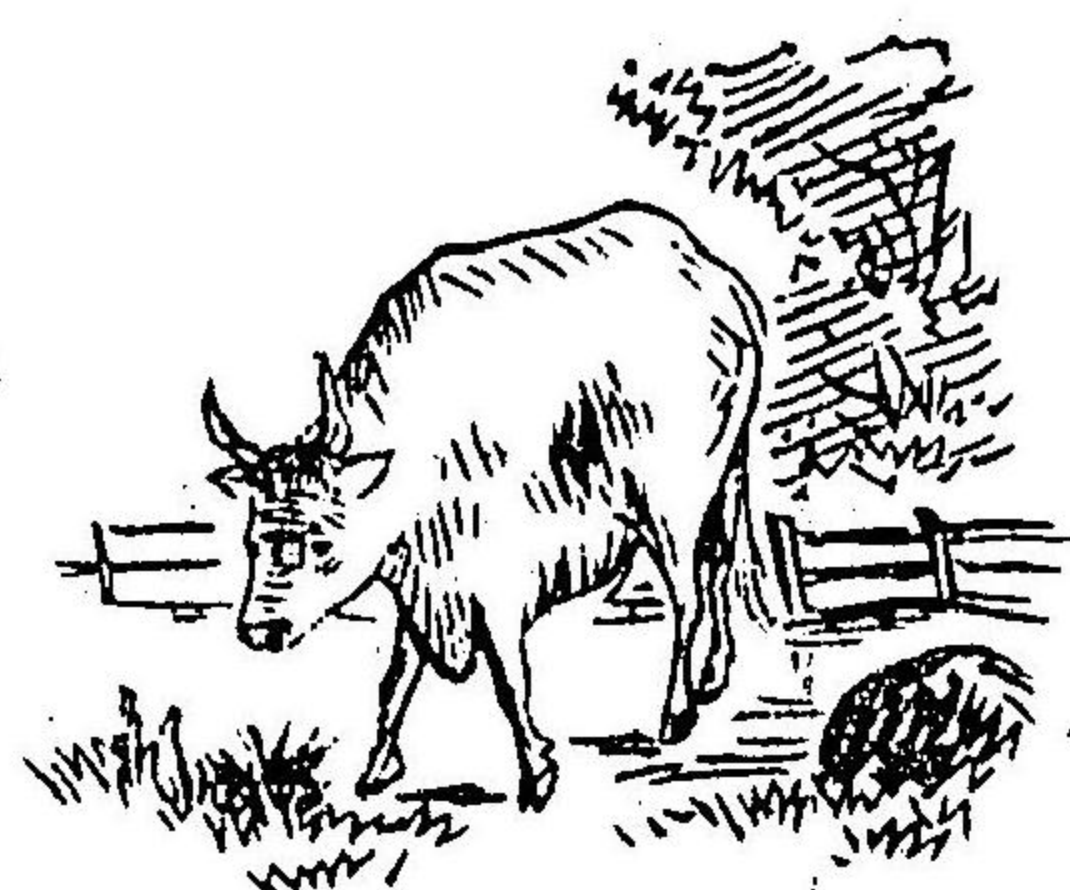
それは誰の馬車なるや。○これは



我の馬車なり、○我は、
 了の中に、乗れるや、○
 否、彼はその中に、乗れ
 り、

第十二

それは我なりや、又、彼なりや、○そ
 れは、彼なり、○我等の爲す如くせ



よ、○我等の如くす
 づ、

第十三

それは馬なりや、又、
 牛なりや、○若し、牛
 なれば、それは、我の
 飼牛なり、

第十四



我はそれに乗りにて、
高く上ることを得
づまや、○我等はそ
れに乗りにて、高く上
ることを得、○高く上
るならば、我の上りに
如く、高く上るべし、

るべし、

第十五



我は上れりや、○高く
上れり、○彼は下れり
や、○低く下れり、○我
の如く上れ、○我の如
く、高く上るべし、

第十六



○牛、歩み行け、牛、歩み行くべし、

第二課

これは牛なり、○
我は、吾が飼牛に、
乗る、○彼も、亦、我
の飼牛に、乗れり、

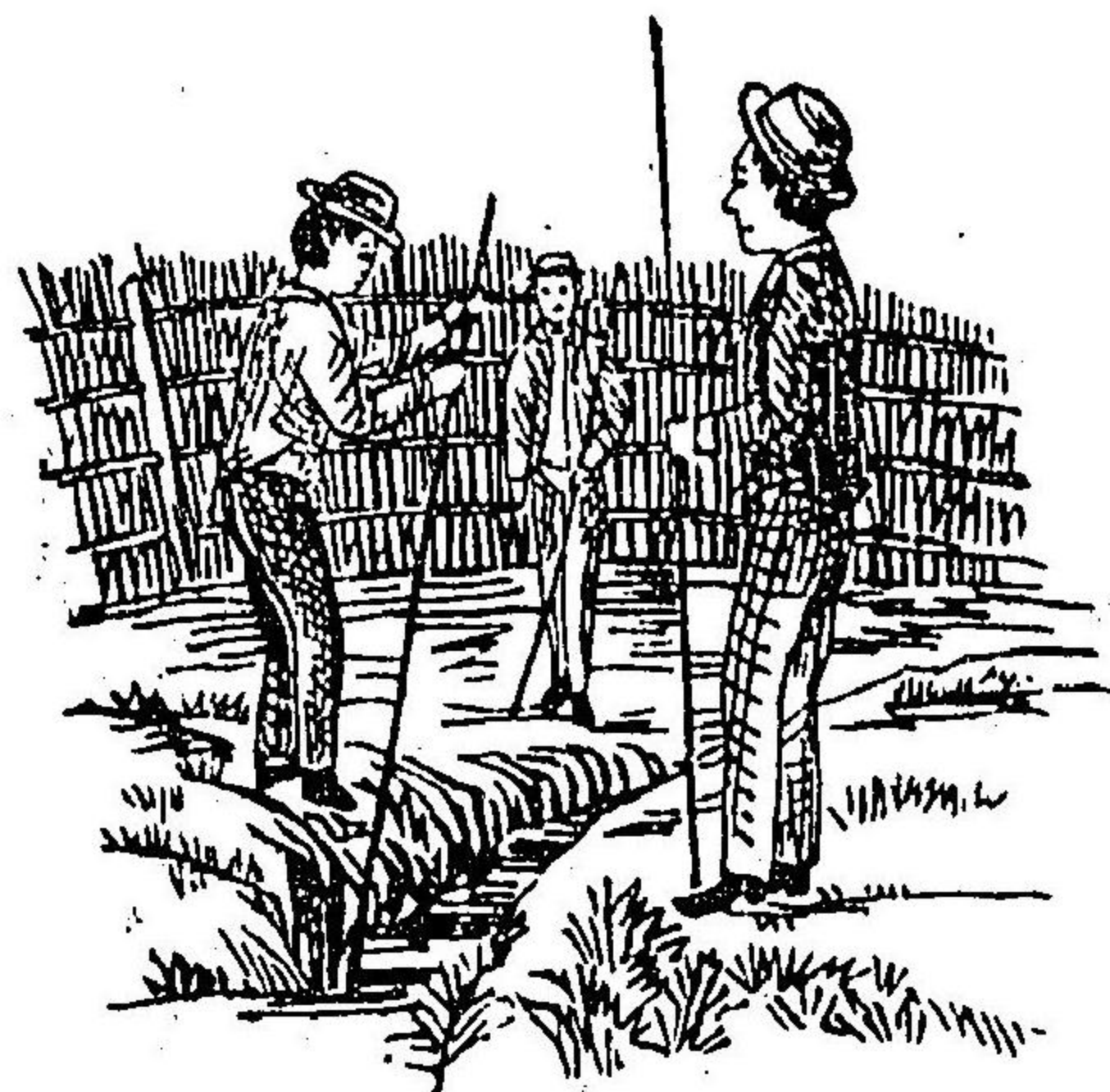
第一



我の昇るを見たりや、○汝は昇る
ことを得るや、

我等をして、昇ら
めよ、○我等は昇る
ことを得、○我の昇
る如く、昇れ、○汝は

第二



吾は、それを爲すこ
とを得。○彼は、爲す
ことを得る也。○彼
は、それを爲すこと
を得。吾も亦爲すこと
を得。○汝は、
それを爲すことを試み
得べし。

第三



爰に、童子と犬とあ
り。○我は童子と、犬
とを見る。○此童子
は、犬に乗れり。○汝
は、其童子を見たり也。
○犬は、汝を
見し也。

第四

これは狐なりや。○然り、これは狐
 なり。○此狐は犬に追
 はれて、走れり。○汝は
 これを見たりや。○其
 犬は狐を得たりや。



第五

彼女子の嘆くを見
 よ。○彼は何を嘆け
 るや。○汝は童子を
 見たりや。○彼も亦
 嘆きたりや。○否、彼



は嘆かざるなり。

第六

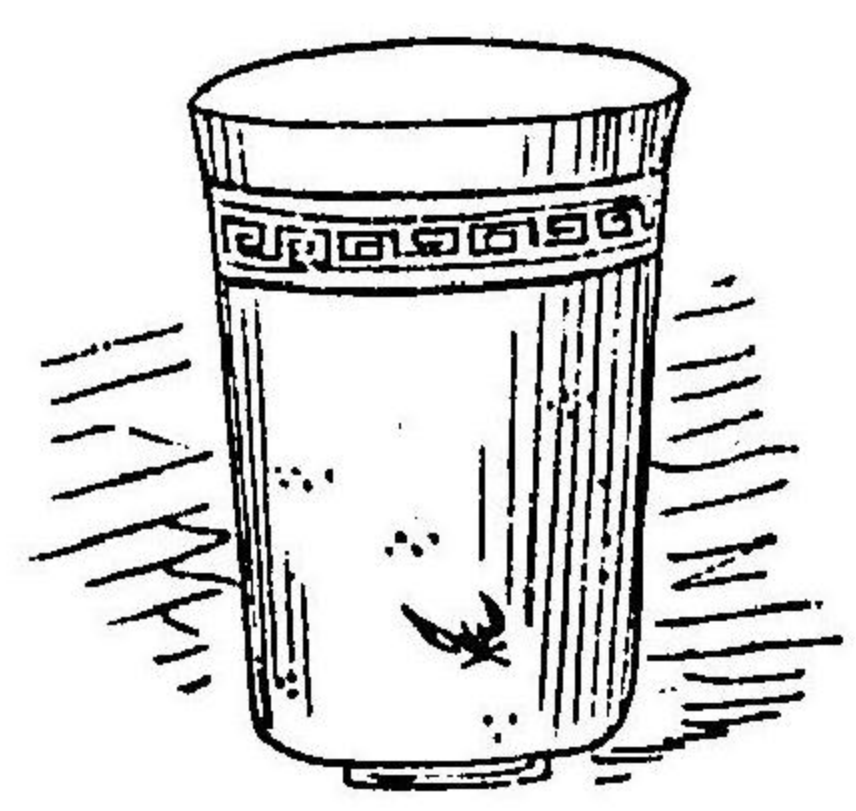


汝は、吾の駒に乗る
を見たりや、○汝は
吾が駒の、走るを見
たりや、○然り、吾は

それを見たり、

第七

これは、吾の水呑なり、○その中に、



一匹の蠅、飛び込めり、
○此水呑に、水を注ぎ、
飲みて可なりや、○呑

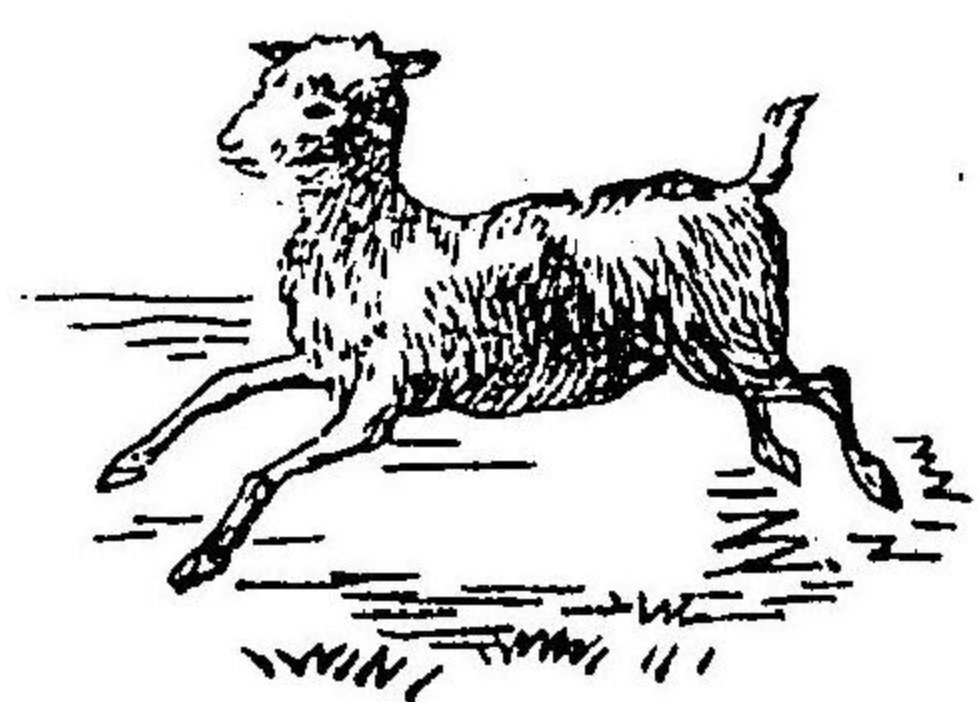
然るときは、洗ひて後、水を注ぎ、飲
むべし、

第八

此童子を見よ、○彼は、新しき帽を

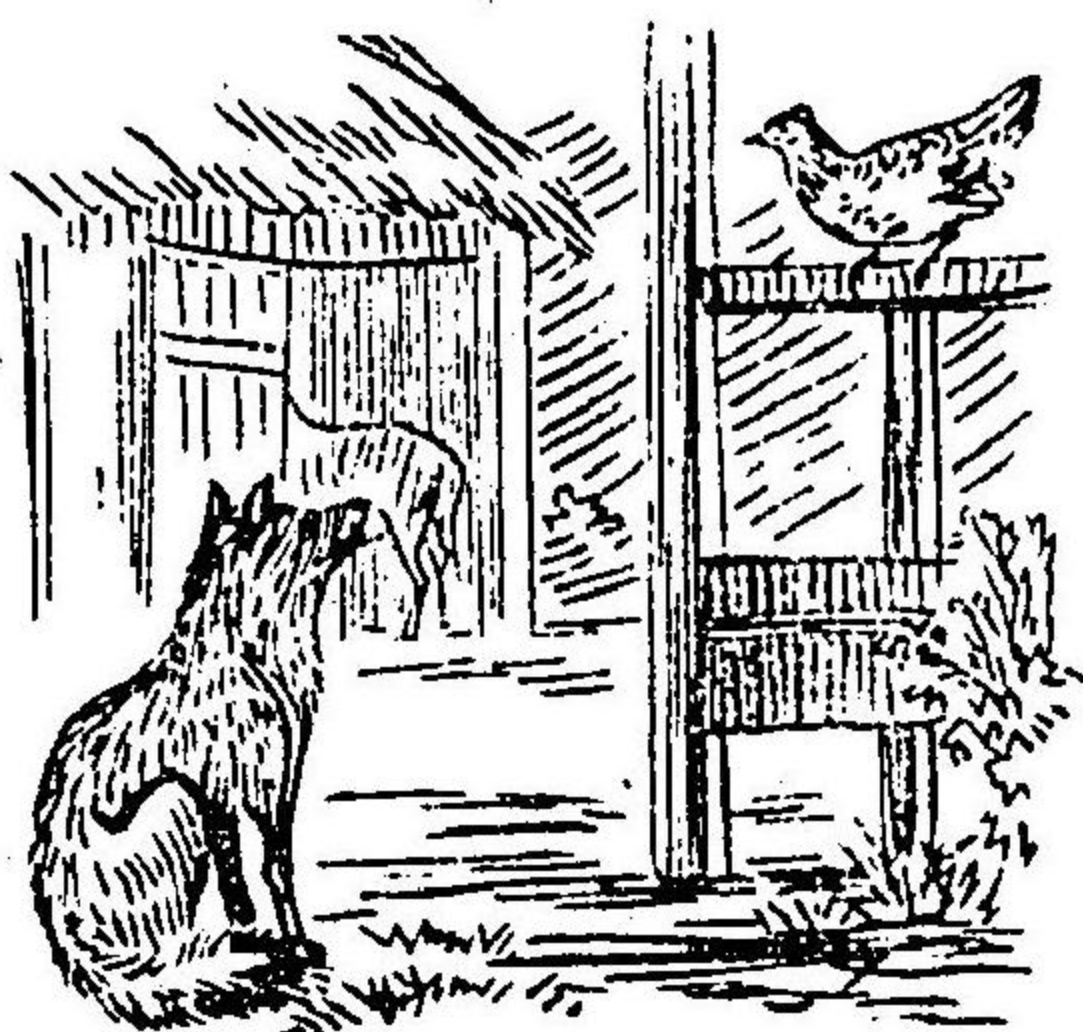


持てりや、○彼は帽を
持てり、○吾も亦之を
持てり、



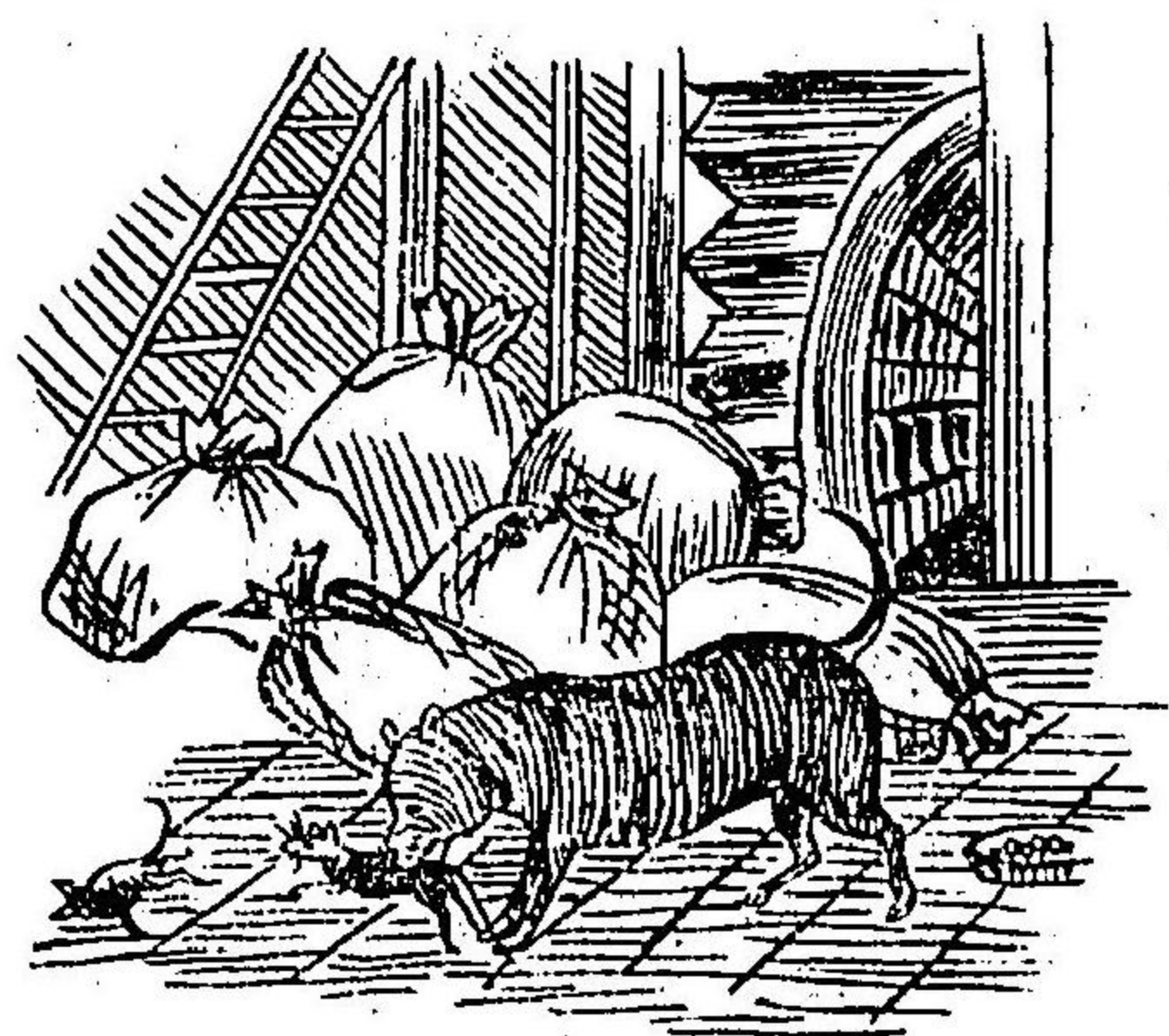
これは山羊なりや、○これは愛す
づき、山羊なり、○此山
羊の走るを見よ、○そ
の走ること甚だ遅し、

第九



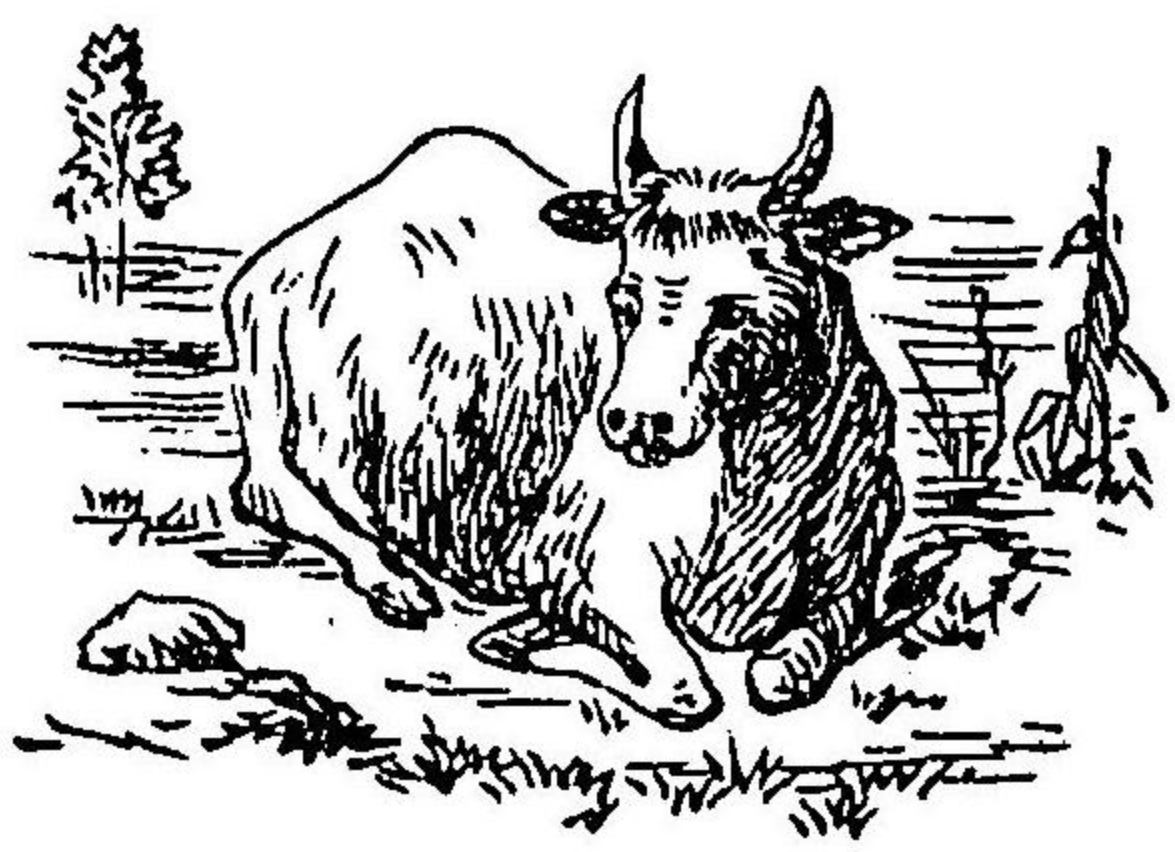
此狐は狡猾なりや、○
彼は實に狡猾なり、○
此牝雞

は飛ぶことを得る
や、○彼は老たる牝
雞なり、



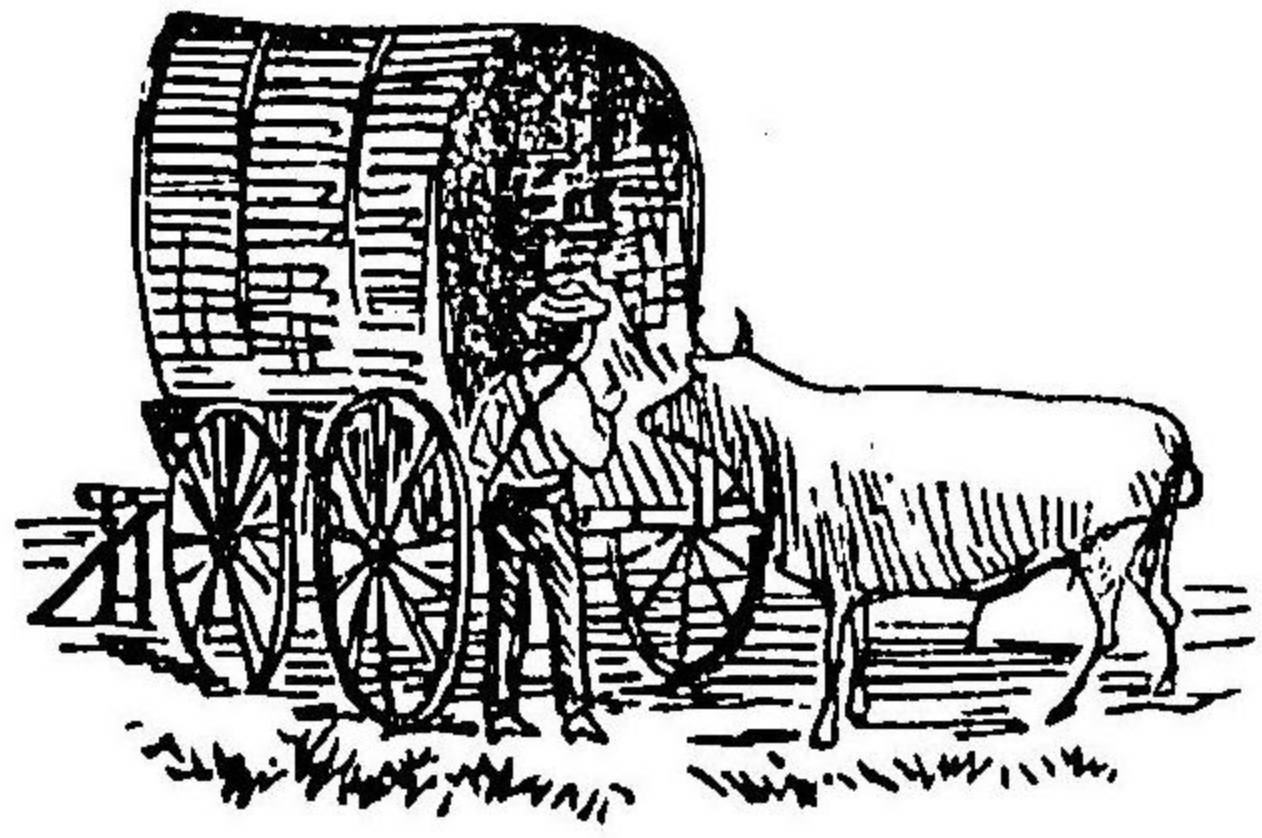
此老たる犬を見よ。○此鼠は能く
走れり。○此犬も亦然り。

第十



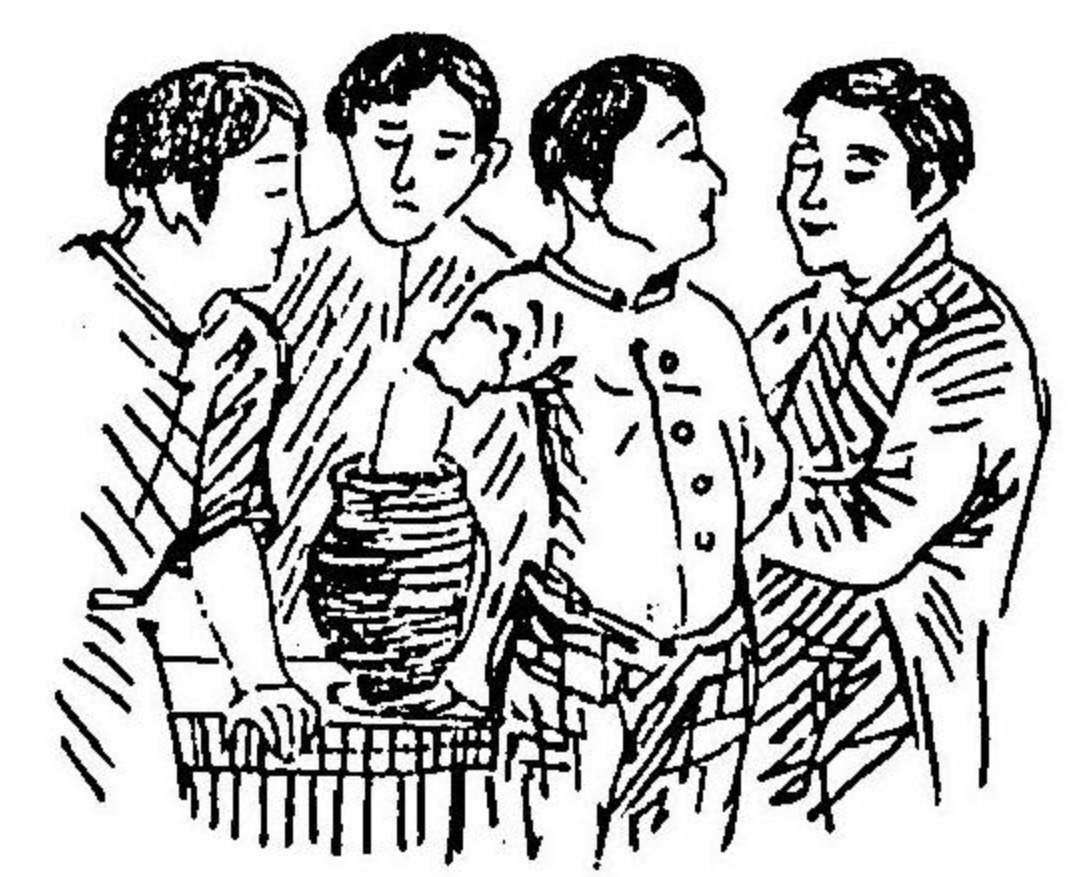
此老たる牛を見よ。○
これは赤き牛なり。○
彼は起き立つことを
得るや。○彼は枯草を

食ふや。○然り、尚ほ能く起きて之を
食へり。



此牛は歩むことを得
るや。○此人は牛を牽
き來りて、これに枯草
を食はしむる所なり。

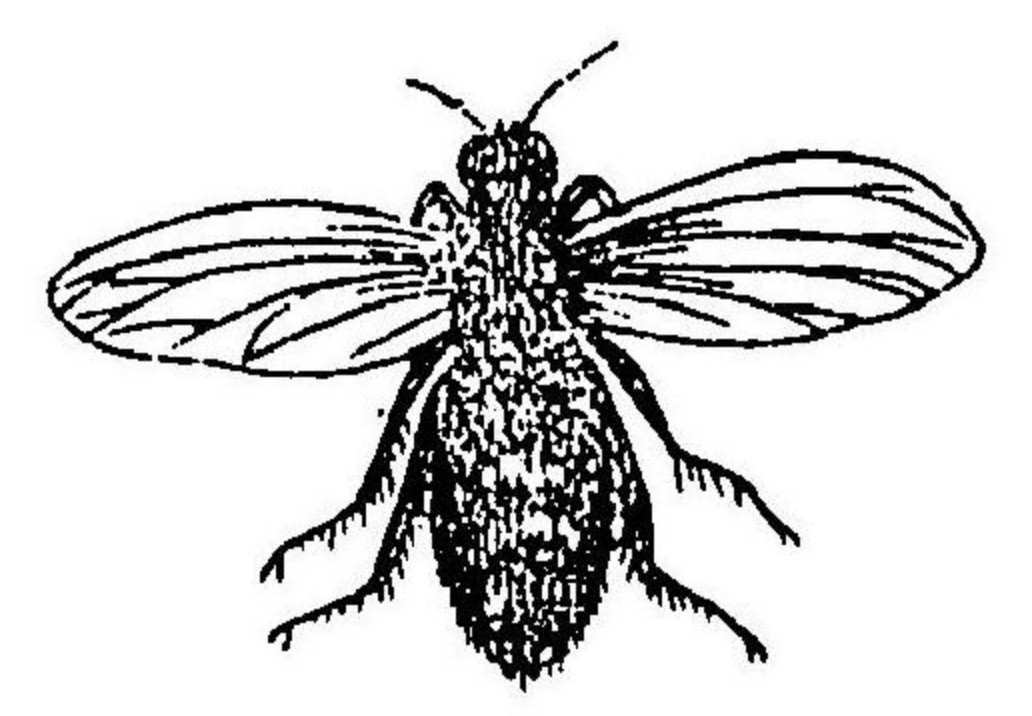
第十一



それは徳利なりや○
 それは盃なりや○否
 これは徳利にあらず
 又盃にあらずして壺
 なり
 此梟を見よ○吾にそ
 れを見せしめよ○此

梟は飛び翔ることを得るや○然
 り、梟は飛ぶことを得れども、走る
 こと能はず

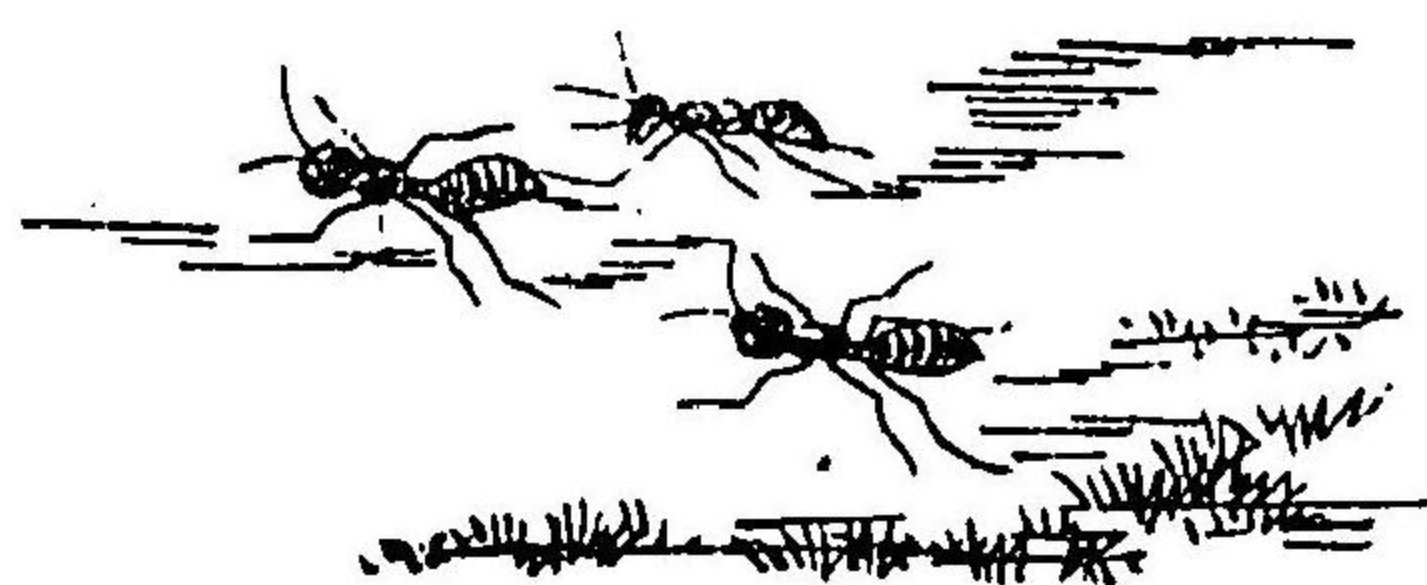
第十二



それは蠅なりや○それ
 は、蚩なりや○否、蠅にあ
 らず、又蚩にもあらず○

されば、蜂なりや、○然り、これは蜂なり、

それは、蜂なりや、○これは蜂にあらず、○それは、蟻なりや、○然り、これは、大なる蟻なり、○この蟻の、走るを見よ、

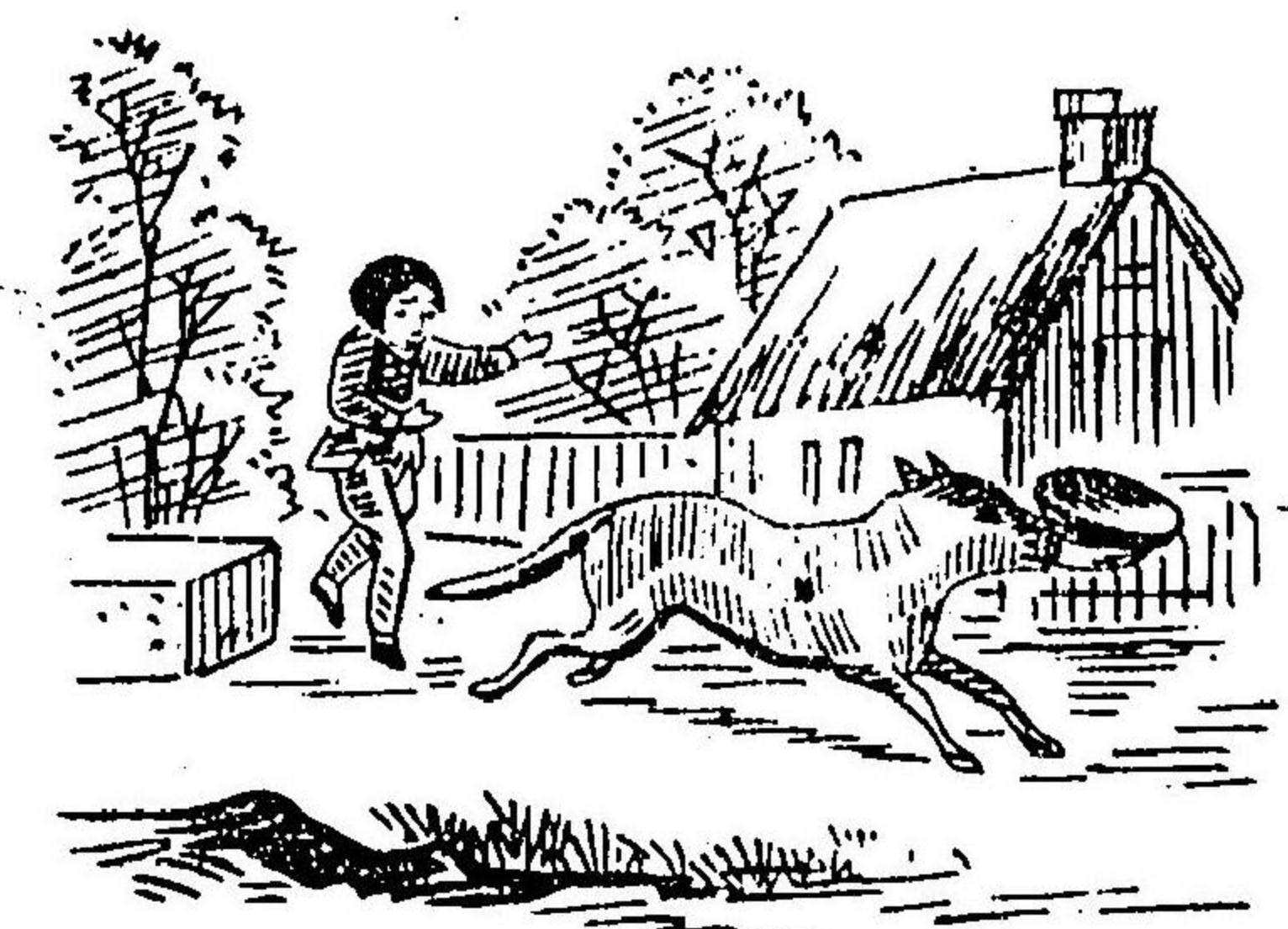


第十三

吾の、新しき、獨樂を見よ、○汝は、そ



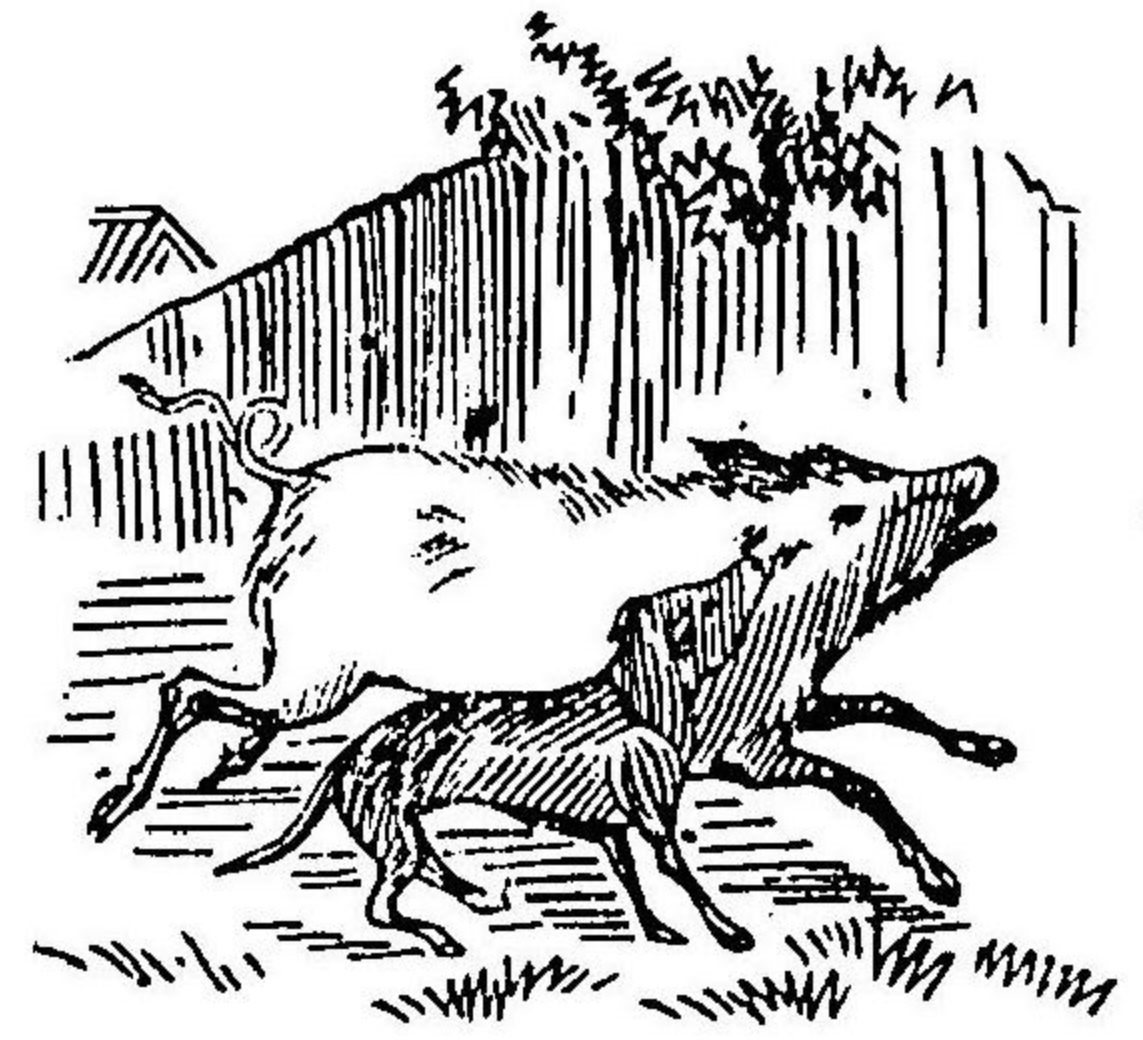
の、獨樂を見たりや、○それは、大なる、獨樂なりや、○その、獨樂は、如何に、大なりや、○その、獨樂は、甚だ大なり、



第十四

犬と豚との、走るを見よ、○犬は豚

此犬は、如何にして、此
帽を、啣へ得たりや、○
彼は、其帽を箱の上に、
置きたるゆへ、犬は、こ
れを得たるなり、

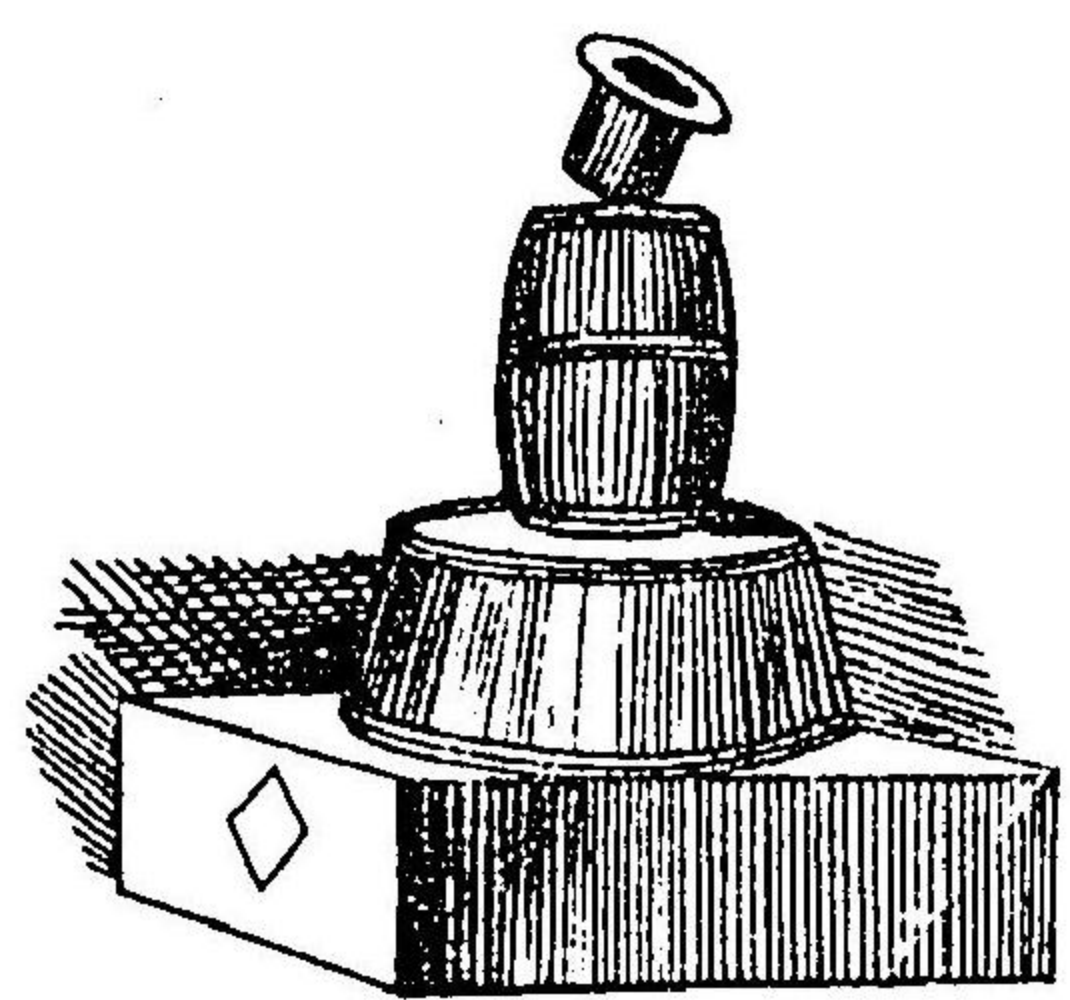


の耳を啣つて、引き留
めんとせり、○これは
吾の飼犬にして、悪き
犬にあらず、○吾は、こ

れを、打つことを得、又、其足を、搏る
ことを得るなり、

第十五

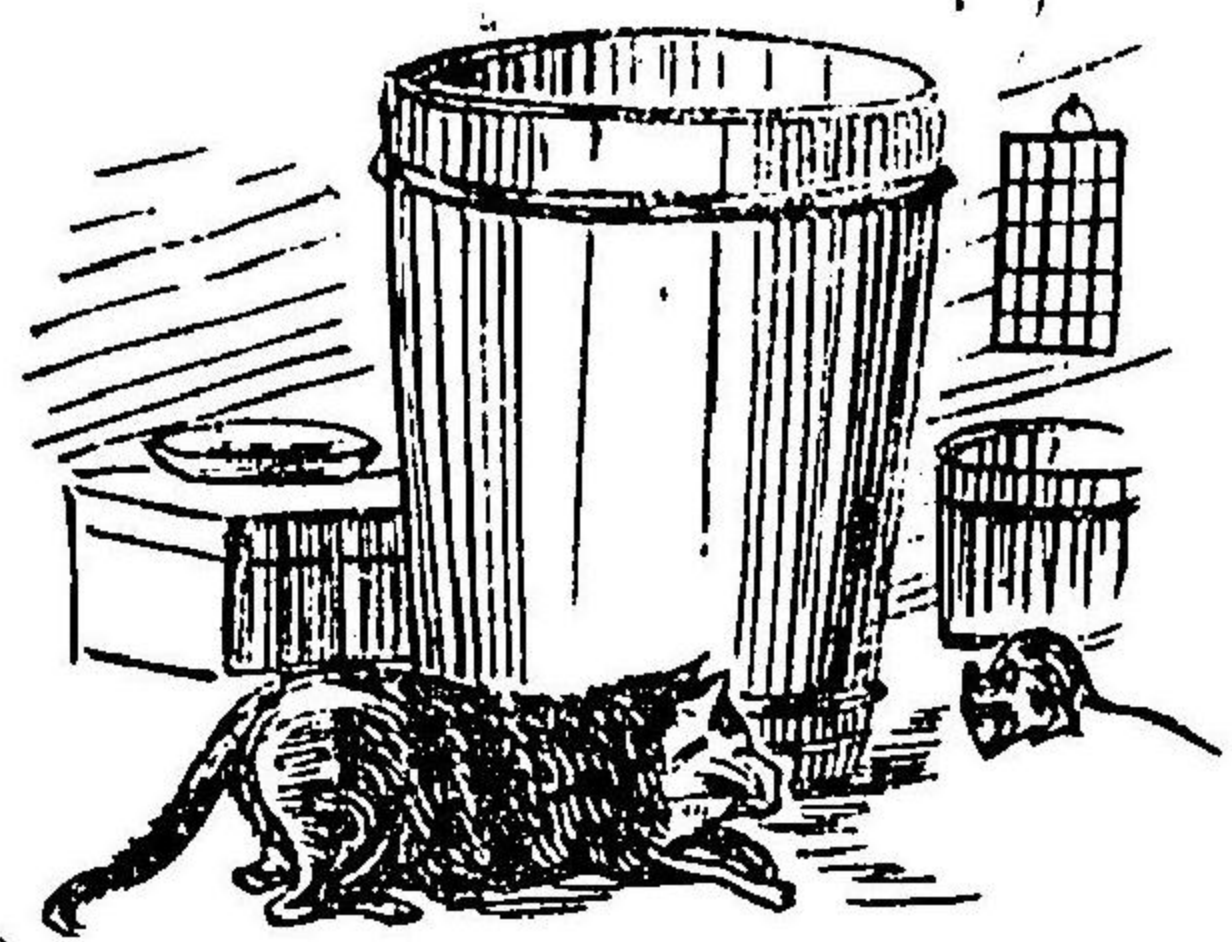
爰に箱の上に、木盥あり、木盥の上
に、小桶あり、小桶の上に、帽あり。○



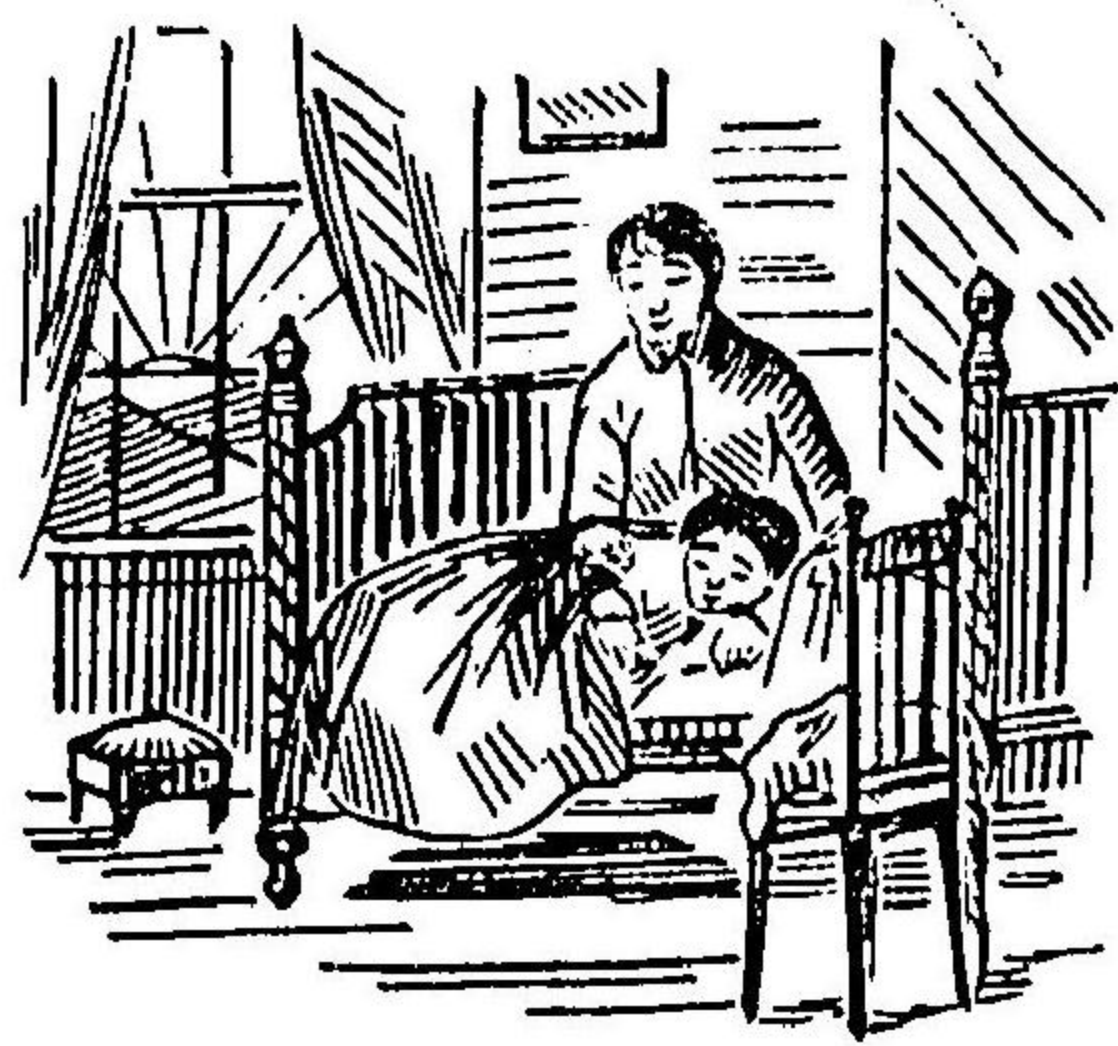
その、小桶は新しく
して、帽は古し。○そ
れは、我の帽なり。○
汝は、吾の帽を、小桶の上に、置ま
し。○汝は何故に、其處に置ま
し。○

○此の如きことを、爲すべからず。
第十六

老たる猫と、大なる鼠とあり。○此
猫は、甚だ狡猾なり。○
汝は、猫を見たりや。○
此猫は、今、鼠を見たり
ども、鼠は、未だ猫を見



ず。○走れ鼠、走らざれば、猫が汝を捕へて、食ふべし。○鼠は其老たるものにて、猫の如く、狡猾ならず、



第十七

起きよ、起きよ、褥床を離るべし、大陽昇りたればなり。○汝は大陽

の出でたるを見得るや。○終日、褥床に、卧すべからず、今直きに、起き出づべし。○起きて、門外に出で、人の草を刈るを見よ。○草は牛馬の食料とする爲めに、刈り取るなり。

第十八

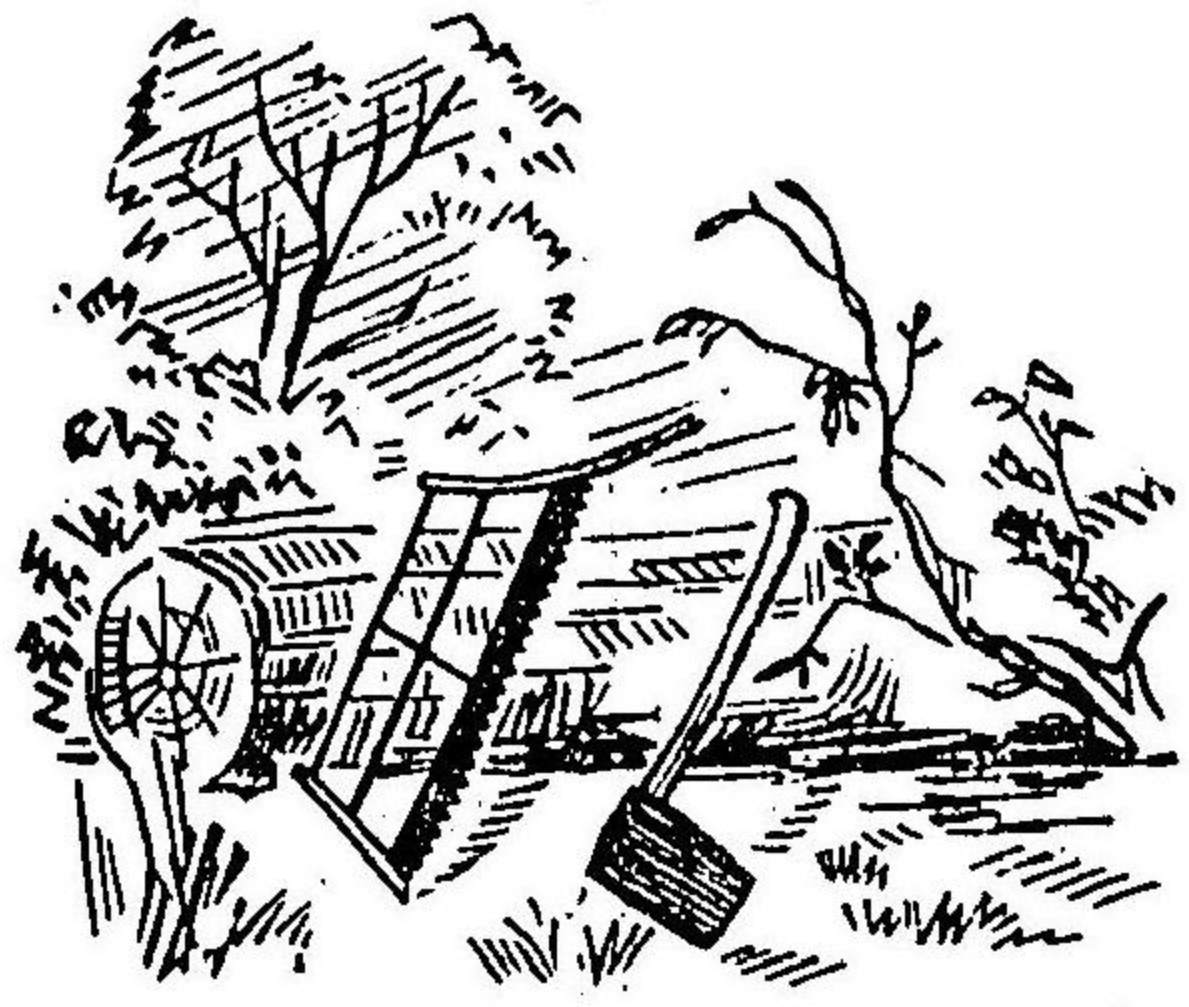
今日は、五月の熱き日なり。○吾は、

蜂が蕾に止るを見たり。○汝は、これを見たりや。○汝は、その蜂に止め針を刺したりや。○蜂は、今蕾に止れり、然れども、その蕾を食ふことなし。○蜂は、飛ぶことを得るや。○吾は、蜂を、盃中に入るべきや。



第十九

爰に、渾木と、鋸と、斧とあり。○汝は、此三つの物を見たりや。○それは、大なる渾木なりや。○これは、大なる渾木なり。○斧は、渾木を劈く爲めのものにして、鋸



は、これを切る爲めのものなり、○
○汝は、鋸と斧とを、使ひ用ふるこ
とを得るや、○これを使ふときは、
傷を受けざる様に、すべし、

第二十

汝は、枯草の上に、我の居るを見得
るや、○吾は、今、枯草に、上りて居れ



り、○汝も亦、此乾草に、上ることを、
得るや、○然り、吾も
亦、上ることを得、○
○汝は、彼童子を、上
らむべけれども、
犬を、上らむべか
らず、○童子、汝は、來りて、此處に、上

るべし、

第二十一



爰に人と豚とあり、○吾は人と豚
とを見る、○豚は小
屋の中にあり、○汝
はその人と豚とを
見たりや、○然り、吾

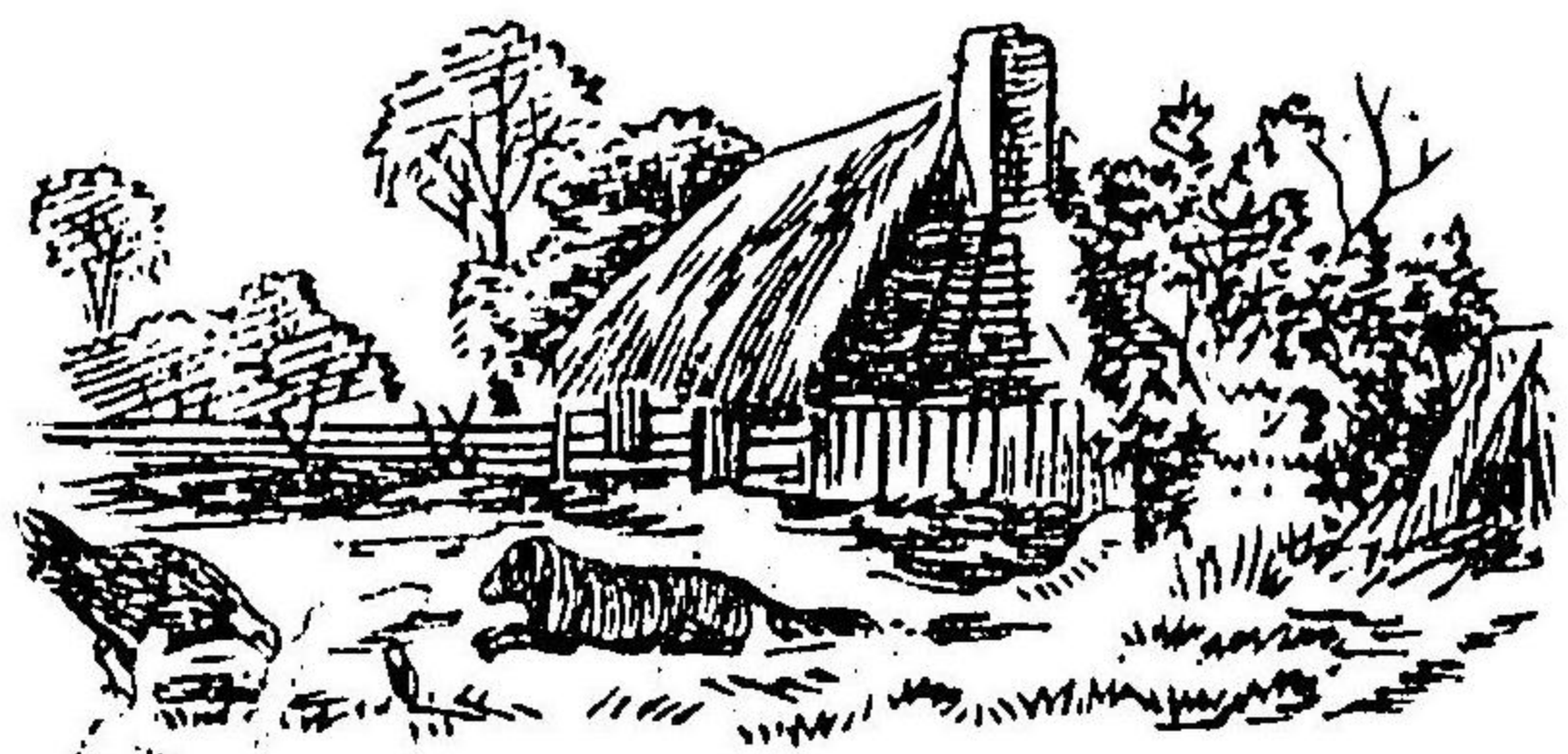
は之を見たり、○それは肥たる豚
なりや、○豚は乾草を食ひ得るや、
○否、食ひ得ず、○我等は小屋に行
きて豚を見ることを得るや、○然
り、汝等は行きて見ることを得べ
し、

第二十二

これは老人なり。○彼は如何に老
たりや。○彼は起き立つことを得
るや。○彼は起き立つ
ことを得れども、年老
たるゆへ、遠く行くこ
と能はず。○汝は彼の
帽を見たりや。○汝は古き小屋を



見たりや。○我はこれを見たり。○
これは老人の小屋な
り。○此老人は、犬と猫
と、雞とを飼へり。○汝
は、その犬と雞とを見
ることを得れども、猫
は、小屋の中に居るゆへ、これを見



ること能はざるべし、

第二十三

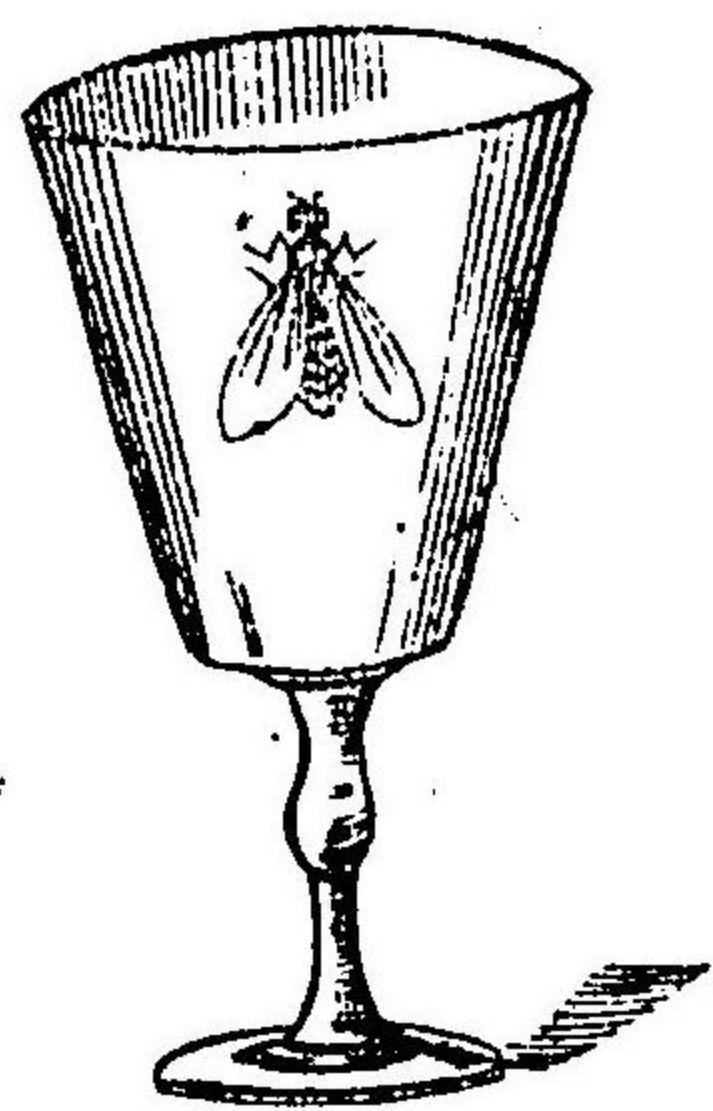
老人は今小屋の中に在りや。○然り、彼は褥床の上に居れり。○此老人は物を見ることを得るや。○然り、此老人は物を見ることを得。○彼の飼犬は悪しき犬なりや。○否、彼の

の犬は悪しき犬にあらず。○猫は小屋の中に在りや。○然り、猫は新しき蓆の上に居れり。○老人は今吾を見ることを得るや。○否、彼は汝を見ること能はず、彼は褥床の上にあればなり。○彼は盃と帽とを、持てりや。○彼は兩ながら、これを

持てり。○我は、老人の小屋に行き、
彼を逢ひて、その猫と盃とを見ん
ことを、請ひ得べきや。○然り、汝は、
行きて、請ふことを得べし。然れど
も、走りて、行くべからず、

第二十四

此水呑の側らに、蠅止れり。○若し、

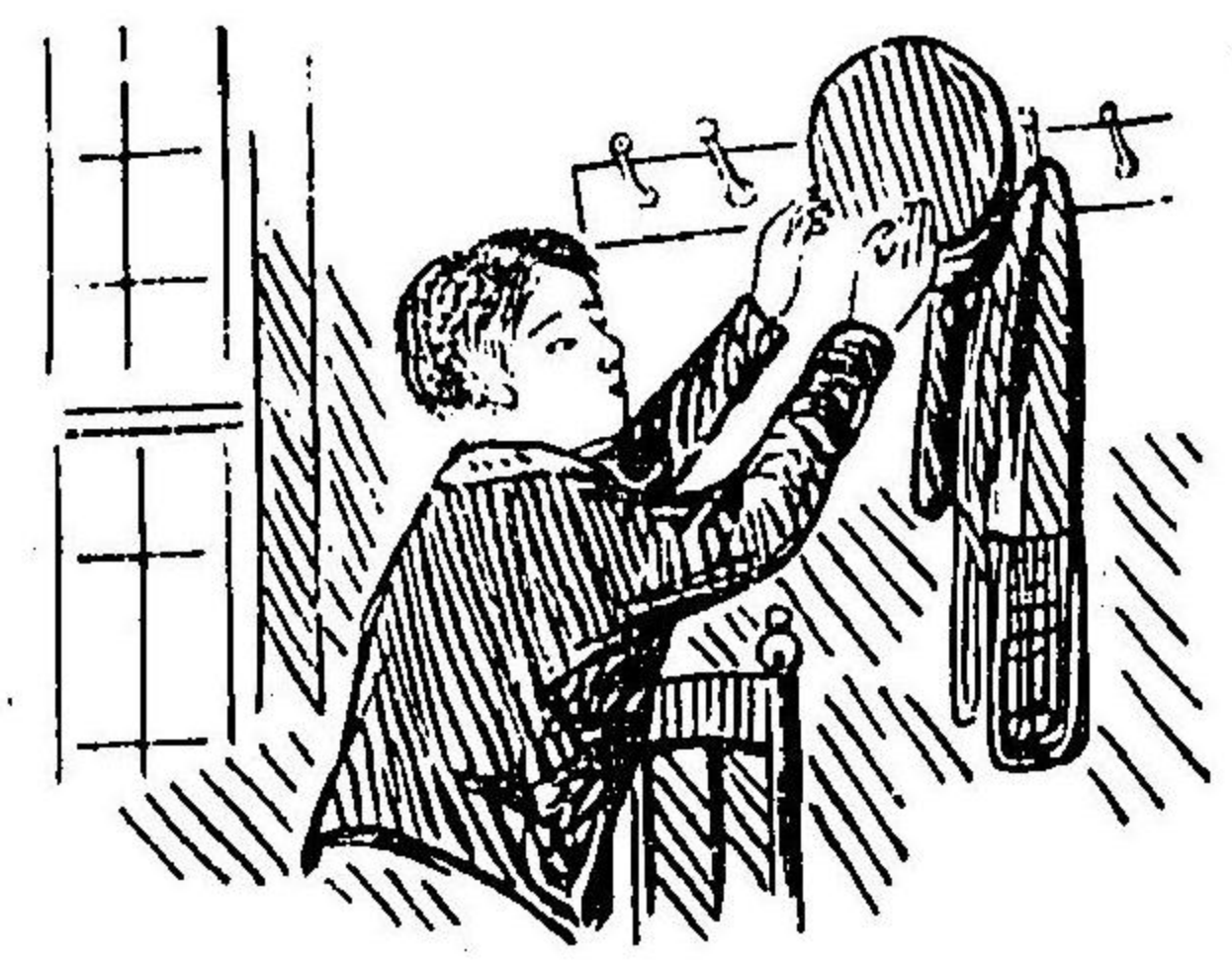


これを捕つて、其中に入るれば、飛
び出すことを得るや。○我等は、こ
れを試むべきや。○
否、その蠅を捕ふる
ことなかれ。○若し、
これを入れるれば、飛び出すこと明か
なり。○汝は、蠅の飛ぶを見たりや、

○汝は蠅の眼を見たりや、○蠅は
我を見ることを得るや、○然り、そ
れは汝を見ることを得るなり、

第二十五

汝は吾の獨樂を探し出すことを
得るや、○吾の獨樂は何處に在り
と思ふや、○それは我帽の中に在



りて帽は帽子掛けの
上に在り、○吾は容易
く、これを取り出すこ
とを得、○汝は手を伸

して、これを取り出すことを得る
や、○若し手の届かざるときは箱
又は椅子を臺とし、その上に乗り

て取り出すべし

小學讀本卷之一終

明治十五年五月廿九日板權免許
同年八月出版

定價拾貳錢

東京府士族
纂譯人 宇田川準一

東京西小川町丁目七番地

出版 文學社

東京馬喰町丁目一番地

